

第102回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、 令和6年度第4回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調 査会（合同開催）	資料 1-7
2024（令和6）年7月29日	

副反応疑い報告の状況について

1. 副反応疑い報告全体の概要について
2. 関連する調査・研究について
3. 論点のまとめ
4. 参考資料（性・年齢別の接種回数等）

1. 副反応疑い報告全体の概要について
2. 関連する調査・研究について
3. 論点のまとめ
4. 参考資料（性・年齢別の接種回数等）

新型コロナウイルスワクチンにおける副反応疑い報告の概要①

○ 新型コロナウイルスワクチンにおいて、予防接種開始後より今回の審議会までに副反応疑いとして報告された事例は以下のとおりであった。

ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン（12歳以上）

	集計期間	接種回数*	医療機関報告数 (報告頻度)			製造販売業者報告数 (報告頻度)		備考
			副反応疑い報告	うち重篤報告	うち死亡報告	副反応疑い報告	うち死亡報告	
12歳以上	2023年9月20日- 2024年4月21日	25,153,438 接種	153 (0.0006%)	83 (0.0003%)	22 (0.0001%)	218 (0.0009%)	35 (0.0001%)	(接種回数) 2023年 9月20日～2024年3 月30日 (*2024年3月30日 時点抽出データに基 づく)

ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン（5～11歳）

	集計期間	接種回数*	医療機関報告数 (報告頻度)			製造販売業者報告数 (報告頻度)		備考
			副反応疑い報告	うち重篤報告	うち死亡報告	副反応疑い報告	うち死亡報告	
5～11歳	2023年9月20日- 2024年4月21日	157,788 接種	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (0.0013%)	0 (0%)	(接種回数) 2023年 9月20日～2024年3 月30日 (*2024年3月30日 時点抽出データに基 づく)

ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン（6ヶ月～4歳）

	集計期間	接種回数*	医療機関報告数 (報告頻度)			製造販売業者報告数 (報告頻度)		備考
			副反応疑い報告	うち重篤報告	うち死亡報告	副反応疑い報告	うち死亡報告	
6ヶ月～4歳	2023年9月20日- 2024年4月21日	80,520 接種	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0.0012%)	0 (0%)	(接種回数) 2023年 9月20日～2024年3 月30日 (*2024年3月30日 時点抽出データに基 づく)

注：被接種者の属性等が大きく異なるため、ワクチン間の報告頻度の単純な比較は困難であることに留意を要する。

※調査結果、症例の重複等が判明し報告が取り下げられことがある。取り下げ状況によっては、累計報告件数が前回の集計期間時から減少すること等がある。

新型コロナワクチンにおける副反応疑い報告の概要②

○ 新型コロナワクチンにおいて、予防接種開始後より今回の審議会までに副反応疑いとして報告された事例は以下のとおりであった。

モデルナ社1価ワクチン（オミクロン株XBB.1.5系統）

	集計期間	接種回数*	医療機関報告数 (報告頻度)			製造販売業者報告数 (報告頻度)		備考
			副反応疑い報告	うち重篤報告	うち死亡報告	副反応疑い報告	うち死亡報告	
総数	2023年9月25日- 2024年4月21日	3,070,538 接種	50 (0.0016%)	32 (0.0010%)	12 (0.0004%)	43 (0.0014%)	12 (0.0004%)	(接種回数) 2023年 9月25日～2024年3 月30日 (*2024年3月30日 時点抽出データに基 づく)
うち12歳以上		3,065,999 接種	50 (0.0016%)	32 (0.0010%)	12 (0.0004%)	43 (0.0014%)	12 (0.0004%)	
うち6～11歳		2,533 接種	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	
うち生後6月 ～5歳		2,006 接種	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	

武田社ワクチン（ノババックス）

	集計期間	接種回数*	医療機関報告数 (報告頻度)			製造販売業者報告数 (報告頻度)		備考
			副反応疑い報告	うち重篤報告	うち死亡報告	副反応疑い報告	うち死亡報告	
総数	2022年5月25日- 2024年4月21日	350,327 接種	44 (0.0126%)	13 (0.0037%)	1 (0.0003%)	40 (0.0114%)	3 (0.0009%)	(接種回数) 2022年 5月25日～2024年3 月30日 (*2024年3月30日 時点抽出データに基 づく)

第一三共社ワクチン（オミクロン株XBB1.5系統）

	集計期間	接種回数*	医療機関報告数 (報告頻度)			製造販売業者報告数 (報告頻度)		備考
			副反応疑い報告	うち重篤報告	うち死亡報告	副反応疑い報告	うち死亡報告	
総数	2023年12月4日- 2024年4月21日	70,519 接種	5 (0.0071%)	1 (0.0014%)	0 (0%)	4 (0.0057%)	0 (0%)	(接種回数) 2023年 12月4日～2024年3 月30日 (*2024年3月30日 時点抽出データに基 づく)

注：被接種者の属性等が大きく異なるため、ワクチン間の報告頻度の単純な比較は困難であることに留意を要する。

※調査結果、症例の重複等が判明し報告が取り下げられことがある。取り下げ状況によっては、累計報告件数が前回の集計期間時から減少すること等がある。5

本日の審議会の内容

1. 副反応疑い報告全体の概要について
2. 関連する調査・研究について
3. 論点のまとめ
4. 参考資料（性・年齢別の接種回数等）

新型コロナワクチン接種後に診断されたIgA腎症について

第102回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和6年度第2回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）

成田参考人
提出資料

2024（令和6）年7月29日

まとめ

日本腎臓学会のアンケート調査

- 新型コロナワクチン接種後に肉眼的血尿をみとめた症例27例のうち20例はワクチン接種前から血尿が認められていた。また、多くの症例で改善しており、ワクチン接種後に不可逆的な腎機能障害を生じた症例はなく、腎機能の変化は一時的なものと考えられた。

COVID-19ワクチン接種と肉眼的血尿の関連についての前向き観察研究

- 新型コロナワクチン接種後に血尿をみとめ、そのうちIgA腎症と診断された症例は、ワクチン接種前から尿所見があるものの未診断であった症例や、血尿が出没していた潜在性のIgA腎症患者が、ワクチン接種後の肉眼的血尿をきっかけに表面化し、診断された例がほとんどであった。
- 深刻な進行性の腎機能障害に至った症例はなかった。

総括

- 新型コロナワクチン接種後に血尿をみとめ、そのうちIgA腎症と診断された症例は、元々存在していたIgA腎症が接種をきっかけとして表面化・診断されたと考えられるものが多かったが、今現在のエビデンスは、症例報告であったり、対照群がない等の研究デザイン上の課題があることなどから、新型コロナワクチン接種とIgA腎症の関連性は未だ明らかではない。
- ワクチン接種開始前後でIgA腎症の診断の増加傾向はみられず、慢性糸球体腎炎を原因とした透析導入の増加傾向もみられない。
- 新型コロナワクチン接種後に肉眼的血尿が出現し、IgA腎症と診断された症例が報告されているため、新型コロナワクチン接種後に血尿を認める場合には、医療機関への受診が重要である。新型コロナワクチン接種後に発症することが懸念されている血尿・IgA腎症は、通常の腎臓内科の診療体制で対応可能と考える。
- 慢性腎臓病（CKD）は新型コロナウィルス感染症重症化のリスク因子であり、CKD患者においても新型コロナワクチンの有効性を示す研究結果があることから、新型コロナウィルスの感染状況や患者の重症化リスク等に応じて、適切にワクチン接種を行い感染・重症化予防を図るメリットは、新型コロナワクチン接種後の肉眼的血尿に対する懸念を上回る可能性が高いと考える。

新型コロナウイルスワクチン接種後の遷延する症状に関する実態調査等について

これまでの経緯

- 令和3年2月1日付けで都道府県に対して通知（※1）を发出し、新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応を疑う症状に対応できるよう、相談窓口の設置と、医療体制の確保について依頼。
- 令和5年2月より「新型コロナウイルスワクチン接種後の遷延する症状に関する実態調査」（※2）を行い、令和6年1月26日開催の審議会（※3）において第三報を報告。
- 令和5年10月27日開催の審議会（※3）において、新型コロナウイルスワクチンの投与開始初期の重点的調査及び新型コロナウイルスワクチン追加接種並びに適応拡大にかかわる免疫持続性および安全性調査（※4）において、症状の持続期間が31日以上であったと報告された事例がどの程度存在したか、分析を行った結果を報告。



今後の方向性（案）

- 引き続き、令和6年度において「新型コロナウイルスワクチン接種後の遷延する症状に関する実態調査」を行う。
 - ・【追加調査】引き続き、専門的な医療機関を対象に、調査対象の期間を延長して調査を行う。
 - ・【追跡調査】これまでの同研究にて報告された、**症状の経過が軽快又は回復以外の転帰の症例について**、経過の詳細等の個別調査を行う。
- 引き続き、新型コロナウイルスワクチン接種後の症状について幅広く評価を行っていく必要があることから、ワクチン接種後から症状が出現又は悪化するまでの期間や、持続期間が長かった症状についても、必要に応じて報告を検討する旨をあらためて周知するため、**遅発性の症状又は遷延する症状についても**必要に応じて報告を検討することを副反応疑い報告等の取扱いに関する通知（※5）に明記する。

※1 「新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応を疑う症状に対する診療体制の構築について」（令和3年2月1日付け健健発0201第2号厚生労働省健康局健康課長通知）
※2 「新型コロナウイルスワクチン接種後の遷延する症状に係る実態調査」（分担研究者 国立国際医療研究センター 国際感染症センター長 大曲 貴夫、川崎市健康安全研究所 参与 岡部 信彦）
※3 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）
※4 「新規新型コロナウイルスを含むコホート調査並びに副反応シグナル全国調査」（代表研究者 順天堂大学革新的医療技術開発研究センター 特任教授 伊藤 澄信）
※5 平成25年3月30日付け健発0330第3号・薬食発0330第1号厚生労働省健康局長・厚生労働省医薬食品局長連名通知

- AMED研究班*によるCOVID-19 mRNAワクチン追加接種後の死亡リスクについて、国内の自治体データを活用した、接種の有無別での比較対照研究の結果は、以下の通りであった。

* 研究開発課題名(AMED)：保健・医療・介護・行政データを統合した大規模データベースを活用したワクチンの有効性・安全性の検証に資する研究開発
(研究代表者 福田 治久)

新型コロナワクチン（mRNAワクチン）追加接種後の死亡のリスクに係るエビデンス

Wataru Mimura, Chieko Ishiguro, Megumi Maeda, Fumiko Murata & Haruhisa Fukuda (2024) Association between mRNA COVID-19 vaccine boosters and mortality in Japan: The VENUS study, *Human Vaccines & Immunotherapeutics*, 20:1, 2350091

【研究概要】国内の2自治体を対象としたコホート内症例対照研究で成人（18-64歳）と高齢者（65歳以上）のCOVID-19 mRNAワクチン接種後の死亡について調査。対象は成人コホート76,730人と高齢者コホート171,967人で、成人・高齢者の各コホート内で死亡例1人に対してコントロール症例を5人を時点マッチングにより抽出した（マッチング因子：性別、年齢、自治体）。マッチした日付前の21日間のCOVID-19 mRNAワクチン接種の有無を比較し、基礎疾患を考慮した調整オッズ比を推定した。対象期間は2021年2月17日から2022年12月31日までとした。

【結果概要】

- ・成人コホートでは431人の死亡症例に対して2155人のコントロール症例をマッチングし（うち男性はともに58.2%、年齢の中央値はそれぞれ57.0歳、56.0歳）、3・4回目接種後0～21日目の死亡の調整オッズ比[95%信頼区間]はそれぞれ0.62[0.24-1.62]、0.38[0.08-1.84]であった。
- ・高齢者コホートでは12,166人の死亡症例に対して60,830人のコントロール症例をマッチングし（うち男性はともに50.2%、年齢の中央値はともに84.0歳）、3・4・5回目の接種後0～21日目の死亡の調整オッズ比はそれぞれ0.36[0.31-0.43]、0.30[0.25-0.37]、0.26[0.20-0.33]であった。

なお、本研究においては併存疾患を交絡因子として調整しているが、死亡に関するオッズ比が小さい理由について、健康者接種バイアス(healthy vaccinee bias)が影響している可能性があるとしている。

- AMED研究班による調査では、COVID-19 mRNAワクチンの追加接種後の成人と高齢者の死亡リスクについて、有意な上昇は認められなかった。

1. 副反応疑い報告全体の概要について
2. 関連する調査・研究について
3. 論点のまとめ
4. 参考資料（性・年齢別の接種回数等）

新型コロナワクチン（12歳以上）の死亡例に関する考え方 （副反応疑い報告の状況に関するまとめ①）

最新の死亡例の報告状況の整理

- 副反応疑い報告制度において、集計期間中にワクチン接種後の死亡例として報告されたものは、以下のとおりであった。
 - ・ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン 35件 （100万回接種あたり1.4件）
 - ・モデルナ社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン 13件 （100万回接種あたり4.2件）
 - ・武田社ワクチン（ノババックス） 3件 （100万回接種あたり8.6件）
 - ・第一三共社（オミクロン株XBB1.5系統）ワクチン 0件 （100万回接種あたり0件）
- 報告された症状等は呼吸不全、発熱、肺炎等であった。
- 専門家による評価は以下のとおりであった。
 - ・ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン α 0件、 β 0件、 γ 35件
 - ・モデルナ社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン α 0件、 β 0件、 γ 13件
 - ・武田社ワクチン（ノババックス） α 0件、 β 0件、 γ 3件
 - ・第一三共社（オミクロン株XBB1.5系統）ワクチン α 0件、 β 0件、 γ 0件
- 集団としてのCOVID-19 mRNAワクチン接種後のリスクの分析については、AMED研究班による報告及び米国の観察研究のいずれにおいても、COVID-19 mRNAワクチン接種後の死亡のリスクについて、有意な上昇は認められなかったとされている。

※製造販売業者による調査結果、症例の重複等が判明し報告が取り下げられことがある。取り下げ状況によっては、累計報告件数が前回の集計期間時から減少すること等がある。

【専門家による評価】

- α ：ワクチンとの因果関係が否定できない
- β ：ワクチンと死亡との因果関係が認められない
- γ ：情報不足等によりワクチンと死亡との因果関係が評価できない

死亡例に関する論点のまとめ

- これまでの死亡に係る副反応疑い報告の状況、及び国内外のCOVID-19 mRNAワクチン接種後のリスクの分析のエビデンスも踏まえると、現時点においては、ワクチンの安全性に係る新たな懸念は認められないと考えてよいか。

新型コロナウイルスワクチン（12歳以上）に係る心筋炎及び心膜炎に関する考え方 （副反応疑い報告の状況に関するまとめ②）

最新の心筋炎・心膜炎の報告状況の整理

- 今回の集計期間における心筋炎・心膜炎の製造販売業者の報告状況は以下のとおりであった。

【心筋炎】

・ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン	ブライトン分類1-5 7件	ブライトン分類1-3 0件
・モデルナ社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン	ブライトン分類1-5 1件	ブライトン分類1-3 1件
・武田社ワクチン（ノババックス）	ブライトン分類1-5 2件	ブライトン分類1-3 0件
・第一三共社（オミクロン株XBB1.5系統）ワクチン	ブライトン分類1-5 0件	ブライトン分類1-3 0件

【心膜炎】

・ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン	ブライトン分類1-5 1件	ブライトン分類1-3 1件
・モデルナ社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン	ブライトン分類1-5 0件	ブライトン分類1-3 0件
・武田社ワクチン（ノババックス）	ブライトン分類1-5 0件	ブライトン分類1-3 0件
・第一三共社（オミクロン株XBB1.5系統）ワクチン	ブライトン分類1-5 0件	ブライトン分類1-3 0件

※製造販売業者による調査結果、症例の重複等が判明し報告が取り下げられことがある。取り下げ状況によっては、累計報告件数が前回の集計期間時から減少すること等がある。

ブライトン分類1-5：すべての疑い報告事例、ブライトン分類1-3：心筋炎又は心膜炎と評価された事例

ワクチン接種後の心筋炎・心膜炎に関する論点のまとめ

- 12歳以上の者における新型コロナウイルスワクチンに係る心筋炎・心膜炎に関するこれまでの検討結果も踏まえ、現時点においては、ワクチンの安全性に係る新たな懸念は認められないと考えてよいか。

最新の小児へのワクチン接種後の報告状況の整理

- 副反応疑い報告制度において、集計期間中に小児へのワクチン接種後の副反応疑いとして報告された事例は以下のとおりであった。

【医療機関報告】

ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン（5～11歳） 0件（0%）

モデルナ社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン（6～11歳） 0件（0%）

【製造販売業者報告】

ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン（5～11歳） 2件（0.0013%）

モデルナ社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン（6～11歳） 0件（0%）

であり、死亡として報告された事例はなかった。

- 今回の集計期間における心筋炎・心膜炎の製造販売業者の報告状況は以下のとおりであった。

【心筋炎】

・ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン ブライトン分類1-5 1件 ブライトン分類1-3 1件

・モデルナ社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン ブライトン分類1-5 0件 ブライトン分類1-3 0件

【心膜炎】

報告事例はなかった。

※製造販売業者による調査結果、症例の重複等が判明し報告が取り下げられことがある。取り下げ状況によっては、累計報告件数が前回の集計期間時から減少すること等がある。

ブライトン分類1-5：すべての疑い報告事例、ブライトン分類1-3：心筋炎又は心膜炎と評価された事例

小児へのワクチン接種に関する論点のまとめ

- 小児へのワクチン接種後の報告状況について、現時点においては、ワクチンの安全性に係る新たな懸念は認められないと考えてよいか。

最新の乳幼児へのワクチン接種後の報告状況の整理

- 副反応疑い報告制度において、集計期間中に乳幼児へのワクチン接種後の副反応疑いとして報告された事例は以下のとおりであった。

【医療機関報告】

ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン（6ヵ月～4歳） 0件（0%）

モデルナ社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン（6ヵ月～5歳） 0件（0%）

【製造販売業者報告】

ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン（6ヵ月～4歳） 1件（0.0012%）

モデルナ社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン（6ヵ月～5歳） 0件（0%）

であり、死亡として報告された事例はなかった。

- 心筋炎・心膜炎に係る製造販売業者からの報告事例はなかった。

※製造販売業者による調査の結果、症例の重複等が判明し報告が取り下げられことがある。取り下げ状況によっては、累計報告件数が前回の集計期間時から減少すること等がある。

乳幼児へのワクチン接種に関する論点のまとめ

- 乳幼児へのワクチン接種後の報告状況について、現時点においては、ワクチンの安全性に係る新たな懸念は認められないと考えてよいか。

全体のまとめ

- 主な検討項目
 - 死亡 ●心筋炎、心膜炎 ●小児及び乳幼児へのワクチン接種後の状況
 - 新型コロナワクチン接種後に診断されたIgA腎症について
 - ワクチンの安全性に関する我が国の論文報告
- 上記の各項目に係る検討も含め、ワクチンの安全性に係る新たな懸念は認められず、現時点において、ワクチン接種によるベネフィットがリスクを上回ると考えられ、引き続き、国内外の情報を収集することとしてはどうか。

1. 副反応疑い報告全体の概要について
2. 関連する調査・研究について
3. 論点のまとめ
4. 参考資料（性・年齢別の接種回数等）

今後の予防接種実施規則改正の内容

令和5年秋開始接種について、12歳以上の者を対象に第一三共社1価ワクチンを追加。

	初回接種	令和5年秋開始接種
12歳以上	<p>XBB 1 価モデルナ 附則第7条第1項第1号</p> <p>XBB 1 価ファイザー 附則第7条第1項第5号</p> <p>武田社ノババックス 附則第7条第1項第6号</p>	<p>XBB 1 価モデルナ 附則第8条第1項第1号</p> <p>XBB 1 価ファイザー 附則第8条第1項第4号</p> <p>武田社ノババックス 附則第8条第1項第5号</p> <p>XBB1価第一三共 附則第8条第1項第7号</p>
5歳～11歳	<p>XBB 1 価モデルナ 附則第7条第1項第2号</p> <p>XBB 1 価ファイザー 附則第7条第1項第4号</p>	<p>XBB 1 価モデルナ 附則第8条第1項第2号</p> <p>XBB 1 価ファイザー 附則第8条第1項第3号</p>
6月～4歳	<p>XBB 1 価モデルナ 附則第7条第1項第3号</p> <p>XBB 1 価ファイザー 附則第7条第1項第7号</p>	<p>XBB 1 価ファイザー 附則第8条第1項第6号</p>

※1赤枠が改正箇所

※2モデルナ社1価ワクチンについて、小児対象年齢は6～11歳、乳幼児対象年齢は生後6月～5歳

副反応疑い報告に係る性・年齢別の頻度算出のための接種回数算出について

- 首相官邸Webサイトにおけるワクチン接種に係る公表状況を踏まえ、2023年4月28日以後の新型コロナウイルスワクチン被接種者の性・年齢別の接種回数について、以下のように算出することとした。

接種回数算出に係る考え方

- 2023年4月28日審議会時点までの算出方法（概要）
 - 首相官邸Webサイトにおいて公表されているデータより、それぞれのワクチン接種回数別の総接種件数（①）を算出。
 - VRSデータから、ワクチン接種回数別に、接種回数の各性・年齢別の分布情報を取得。・・・②
 - データの確認時点に起因する誤差を考慮し、「①×②」として補正後の各年齢・性別毎の接種回数を算出。
 - 従来型ワクチン及びオミクロン株対応ワクチンを併せた性・年齢別の接種回数については、上記の方法により算出した性・年齢別の接種回数を合算して算出。
- 2023年4月28日以後の算出方法
 - ワクチン接種回数別の総接種件数については、VRSデータの全ての性（不明を含む）・年齢別（不明を含む）の合計値より算出。（首相官邸Webサイトにおいて公表されているデータは利用しない）
 - 従来型ワクチン、オミクロン株対応ワクチンを含め、全ての接種回数別・性・年齢別の接種回数について、VRSデータから算出したワクチン接種回数別に、接種回数の各性・年齢別の分布情報をそのまま利用。2024年7月より最新抽出日（2024年3月30日時点）の情報を利用。

*各ワクチンにおける性・年齢別の接種回数算出については、これまで首相官邸Webサイトにおいて公表されているオミクロン株対応ワクチンを含めた各ワクチンの接種回数別の総接種件数を利用してきた^(注)が、算出に必要な各ワクチンの接種回数別の総接種件数の全てが参照できるわけではなくなったことも踏まえ、VRSデータから算出した各接種回数・性・年齢別の分布情報をそのまま利用することとした。

注：ノババックス社ワクチンの5回目に係る接種回数については、2023年4月28日の審議会において、VRSから取得した数値をそのまま利用し概算している。

性・年齢別の接種回数について

(ファイザー社ワクチン (オミクロン株XBB.1.5系統))

○ ファイザー社ワクチン (オミクロン株XBB.1.5系統) (12歳以上) 接種に係る性・年齢別の接種回数 (2024年3月30日時点) については以下のとおりであった。

表1 性・年齢別の接種回数

年齢	12-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-	(12-17)	(18-24)
男性	53,675	129,013	82,972	96,959	134,381	180,060	237,291	371,160	561,711	692,907	944,130	1,364,710	1,894,278	1,852,797	2,572,804	131,764	133,896
女性	53,164	135,287	112,740	136,860	175,331	234,927	321,091	489,069	699,654	825,577	1,032,837	1,416,324	2,054,075	2,137,482	4,002,052	133,354	167,837
合計	106,839	264,300	195,712	233,819	309,712	414,987	558,382	860,229	1,261,365	1,518,484	1,976,967	2,781,034	3,948,353	3,990,279	6,574,856	265,118	301,733

※ 上記表の「合計」欄は、男性及び女性の合計値を示す。このほか、性別が不明又はその他とされたデータ、年齢が不明とされたデータがあり、これらが本表に含まれていないことから、本表の合計値の総和は、他の資料の接種回数の合計値と必ずしも一致しない。

性・年齢別の接種回数について

(ファイザー社ワクチン (5~11歳用) (オミクロン株XBB.1.5系統))

○ 小児 (5~11歳用) (オミクロン株XBB.1.5系統) の新型コロナワクチンに係る男女別の接種回数 (2024年3月30日時点) については以下のとおりであった。

表 男女別の接種回数

年齢	5-11
男性	81,354
女性	76,433
合計	157,787

※ 上記表はVRSに小児用ワクチンを接種したとして入力されたもののうち、5-11歳の合計値を記載。「合計」欄は、男性及び女性の合計値を示す。このほか、性別が不明又はその他とされたデータ、年齢が不明とされたデータがあり、これらが本表に含まれていないことから、本表の合計値の総和は、他の資料の接種回数の合計値と必ずしも一致しない。

性・年齢別の接種回数について

(ファイザー社ワクチン(6ヶ月～4歳用) (オミクロン株XBB.1.5系統))

○ 乳幼児(6ヵ月～4歳用) (オミクロン株XBB.1.5系統) の新型コロナワクチンに係る男女別の接種回数(2024年3月30日時点) については以下のとおりであった。

表 男女別の接種回数

年齢	6ヶ月～4歳
男性	41,278
女性	39,242
合計	80,520

※ 上記表はVRSに乳幼児用ワクチンを接種したとして入力されたもののうち、0-4歳の合計値を記載。「合計」欄は、男性及び女性の合計値を示す。このほか、性別が不明又はその他とされたデータ、年齢が不明とされたデータがあり、これらが本表に含まれていないことから、本表の合計値の総和は、他の資料の接種回数の合計値と必ずしも一致しない。

性・年齢別の接種回数について

(モデルナ社ワクチン (オミクロン株XBB.1.5系統))

○ モデルナ社ワクチン (オミクロン株XBB.1.5系統) (12歳以上) 接種に係る性・年齢別の接種回数 (2024年3月30日時点) については以下のとおりであった。

表1 性・年齢別の接種回数

年齢	12-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-	(12-17)	(18-24)
男性	4,490	11,415	10,888	16,744	23,842	32,493	40,800	59,606	84,803	100,887	129,861	174,342	223,588	194,745	277,037	11,312	15,481
女性	4,492	12,077	15,896	23,369	28,633	37,245	48,314	68,368	90,597	102,430	119,725	150,256	202,938	192,619	549,066	11,389	21,076
合計	8,982	23,492	26,784	40,113	52,475	69,738	89,114	127,974	175,400	203,317	249,586	324,598	426,526	387,364	826,103	22,701	36,557

※ 上記表の「合計」欄は、男性及び女性の合計値を示す。このほか、性別が不明又はその他とされたデータ、年齢が不明とされたデータがあり、これらが本表に含まれていないことから、本表の合計値の総和は、他の資料の接種回数の合計値と必ずしも一致しない。

性・年齢別の接種回数について

(モデルナ社ワクチン(6~11歳用) (オミクロン株XBB.1.5系統))

○ 小児(6~11歳用)(総数)の新型コロナワクチンに係る男女別の接種回数(2024年3月30日時点)については以下のとおりであった。

表 男女別の接種回数

年齢	6-11
男性	1,286
女性	1,247
合計	2,533

※ 上記表はVRSに小児用ワクチンを接種したとして入力されたもののうち、6-11歳の合計値を記載。「合計」欄は、男性及び女性の合計値を示す。このほか、性別が不明又はその他とされたデータ、年齢が不明とされたデータがあり、これらが本表に含まれていないことから、本表の合計値の総和は、他の資料の接種回数の合計値と必ずしも一致しない。

性・年齢別の接種回数について

(モデルナ社ワクチン (6ヶ月～5歳用) (オミクロン株XBB.1.5系統))

○ 乳幼児 (6ヶ月～5歳用) (総数) の新型コロナワクチンに係る男女別の接種回数 (2024年3月30日時点) については以下のとおりであった。

表 男女別の接種回数

年齢	6ヶ月 - 5歳
男性	1,045
女性	961
合計	2,006

※ 上記表はVRSに乳幼児用ワクチンを接種したとして入力されたもののうち、0-5歳の合計値を記載。「合計」欄は、男性及び女性の合計値を示す。このほか、性別が不明又はその他とされたデータ、年齢が不明とされたデータがあり、これらが本表に含まれていないことから、本表の合計値の総和は、他の資料の接種回数の合計値と必ずしも一致しない。

性・年齢別の接種回数について

(武田社ワクチン(ノババックス))

○ 武田社ワクチン(ノババックス)接種に係る性・年齢別の接種回数(2024年3月30日時点)については以下のとおりであった。

表1 性・年齢別の接種回数

年齢	12-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-	(12-17)	(18-24)
男性	4,483	4,989	14,406	13,520	14,045	15,661	17,105	18,940	19,165	14,119	9,676	6,492	4,736	3,135	3,230	6,884	16,994
女性	4,405	5,525	14,778	12,938	14,439	17,198	18,444	20,599	21,213	16,217	11,544	7,938	6,314	4,574	6,997	7,162	17,546
合計	8,888	10,514	29,184	26,458	28,484	32,859	35,549	39,539	40,378	30,336	21,220	14,430	11,050	7,709	10,227	14,046	34,540

※ 上記表の「合計」欄は、男性及び女性の合計値を示す。このほか、性別が不明又はその他とされたデータ、年齢が不明とされたデータがあり、これらが本表に含まれていないことから、本表の合計値の総和は、他の資料の接種回数の合計値と必ずしも一致しない。

性・年齢別の接種回数について

(第一三共社)

○ 第一三共社ワクチン（オミクロン株XBB.1.5系統）接種に係る性・年齢別の接種回数（2024年3月30日時点）については以下のとおりであった。

表1 性・年齢別の接種回数

年齢	12-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-	(12-17)	(18-24)
男性	506	993	735	775	1,122	1,492	1,642	2,406	3,587	4,074	4,040	3,698	3,249	2,285	2,904	1,117	1,117
女性	549	1,185	868	933	1,220	1,550	1,683	2,532	3,616	4,150	3,792	3,578	3,188	2,595	5,454	1,247	1,355
合計	1,055	2,178	1,603	1,708	2,342	3,042	3,325	4,938	7,203	8,224	7,832	7,276	6,437	4,880	8,358	2,364	2,472

※ 上記表の「合計」欄は、男性及び女性の合計値を示す。このほか、性別が不明又はその他とされたデータ、年齢が不明とされたデータがあり、これらが本表に含まれていないことから、本表の合計値の総和は、他の資料の接種回数の合計値と必ずしも一致しない。